



臨床腫瘍センターだより



第7号(2008年11月10日)



院内がん登録に協力をお願いします！

本院が指定されている「がん診療連携拠点病院」では一定の様式に従った院内がん登録を実施することが義務付けられています。そこで、今回は本院で行っている院内がん登録についてご説明します。

<院内がん登録とは>

目的：各病院のがん診療の実態を把握し、診療の質の向上と患者さんの支援。

- 内容：**
- ①がん患者さんの受療状況の調査
 - ②がん患者さんの生存率の計測
 - ③がん対策のための資料提供
 - ④診療支援や研修、教育の資料提供
 - ⑤臨床疫学研究の支援
 - ⑥院内がん患者さんの継続受診の支援
 - ⑦地域がん登録への届出 など



今までは、各診療科単位では診療したがん患者さんの数が正しく把握されていても、病院全体では診療した患者さんの数は正確には把握されていませんでした。ある種類のがんについて、診療科の受診人数で足し算をしても、同じ患者さんで複数の診療科を受診する人もいるため、正確な数値は算出できず、患者さんの予後も十分に把握されているとは言いがたい状況でした。そのため、本院のがん診療の実態を把握するために院内がん登録が必要となっています。

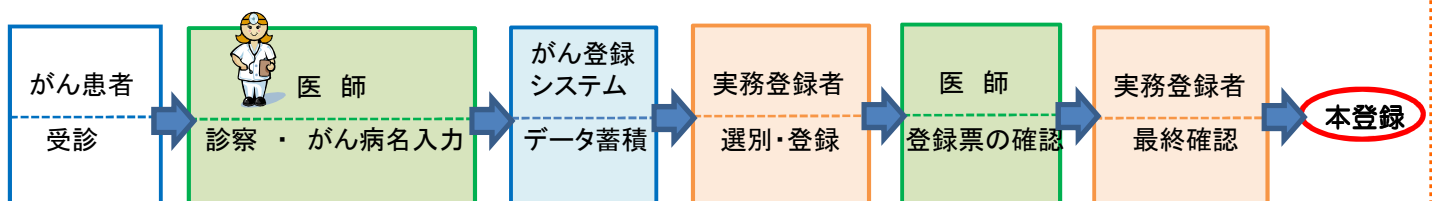
～本院の現状～

平成19年1月の症例から登録が始まり、専任の登録実務者2名が業務にあたっています。

～本院の登録の流れ～

がん患者さんの拾い出しは、どの医療機関でも苦労が多い作業です。カルテ上の病名には正しくない病名も多数あるため、他院では患者さんをごんと診断または治療をすると、各科の先生が登録票を作成するという流れにしている施設が多くあります。しかしこれでは先生方の労力が増えてしまいます。

本院では、極力各科の先生の労力を減らすべく、病期なども極力診療情報管理士が調べて登録するようにしています。最終的には月ごとの登録患者さんの一覧と登録票を、各科の担当の先生に確認していただいております。この点では一部の先生にお手数をおかけしておりますが、今後ともどうかご指導お願いいたします。



(院内がん登録より前面のつづき)

掲示版

現行の方法では本当に登録すべき患者さんかどうかを「判別する」作業に非常に時間がかかっており、このため予定通りのがん登録が進まない状態になっています。そこでさらに効率的な登録をめざし、今後、より良い拾い出しができるよう電子カルテに取り入れる予定です。



ミニ知識 ～がん登録の意義と種類～

【意義】 日本人の死因の大きな部分を占めるがんの予防・治療の対策を考える上で、がんの発生状況や治療の内容、予後などは重要な情報です。正確ながんの実態把握を行うためにがん登録は必須です。

【種類】 「院内」がん登録：医療機関ごとに行う
「地域」がん登録：地方自治体が行う
「臓器」がん登録：学会などが主導する

文責 臨床腫瘍センター 石田 卓



<10月の外来化学療法室利用状況> 利用者数 212名

(単位: 人)

消化器外科Ⅰ	45	消化器内科	20
消化器外科Ⅱ	16	婦人科	7
乳腺外科	76	泌尿器科	2
呼吸器科	18	血液内科	0
呼吸器外科	0	小児科	27
皮膚科	1	合計	212



お知らせ

Cancer board開催案内

医療従事者を対象に、各臓器別に診療科横断的な腫瘍カンファランスを定期的で開催しております。医療従事者であればどなたでもご自由に参加できます。

消化器	11/13(木)	19時30分
骨軟部	11/17(月)	18時30分
頭頸部	12/ 1(月)	18時
乳腺	12/ 3(水)	19時
悪性リンパ腫	12/ 3(水)	19時30分

緩和ケア学習会開催案内

テーマ：「当院における小児がんの治療体制」
講師：臨床腫瘍センター小児腫瘍部門長 菊田 敦先生
日時：2008/11/11 (火) 18時～19時
場所：カンファランス2

臨床腫瘍セミナー開催案内

演題：『患者の目線から伝えたいこと
～がん患者会の代表を招いて～』

- ①「患者からのメッセージ」
乳がん患者会
ピンクのリボン事務局 高橋 厚子様
- ②「入院生活からまなび、今にいかしたいこと」
造血幹細胞移植患者会
雪うさぎ10西の会 押部 榮哉様

日時：2008/11/18 (火) 18時～19時

場所：第二臨床講義室

※大学院生は共通必修科目(規定の8)に該当します。



文責：臨床腫瘍センター <問い合わせ先>内線：2661 担当：菅野